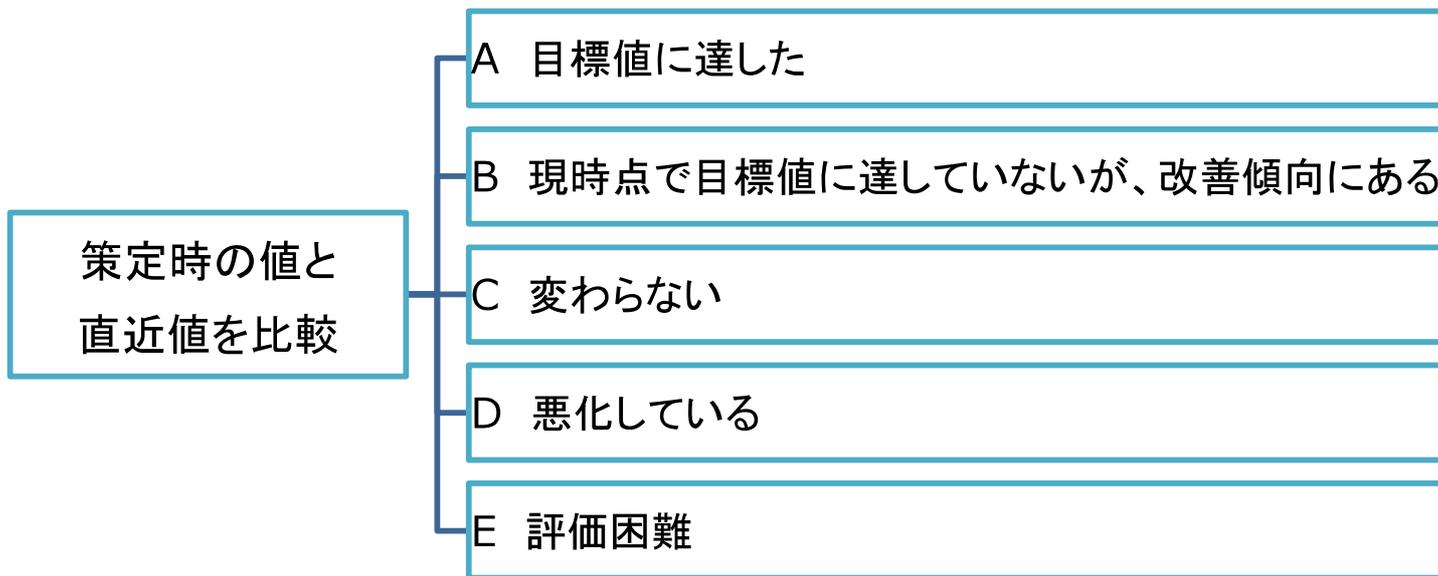


健康市民おかやま 2 1 (第2次) 最終評価報告書概要

最終評価の結果

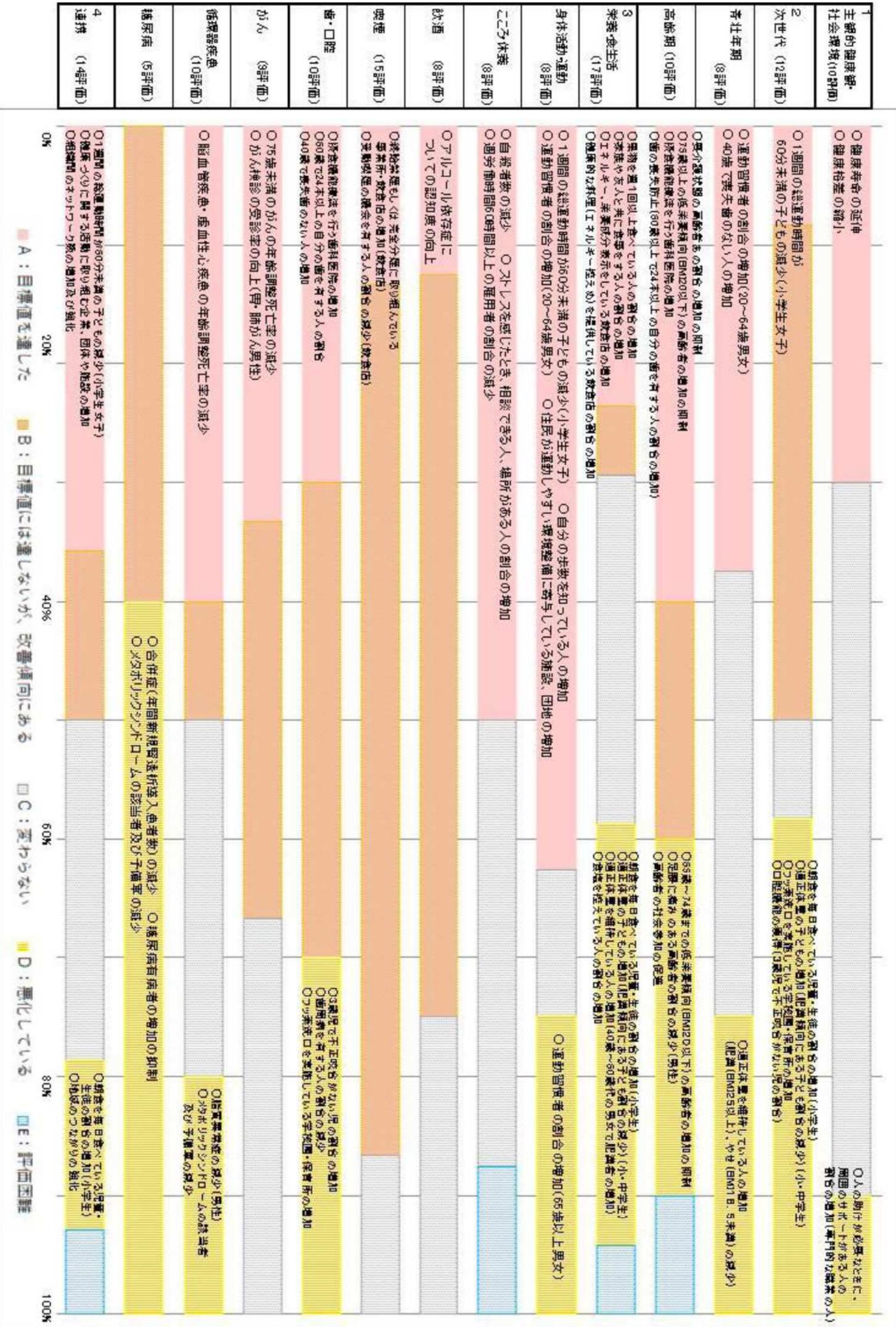
- 平成25年度より開始した、健康市民おかやま21（第2次）については、71項目、113の評価項目（再掲項目除く）を設定している。
- 具体的には、各評価項目について、データ分析等を踏まえ、以下の5段階で評価。

評価区分



目標項目の評価状況

評価区分			評価項目（再掲項目を除く）	
表記	分析結果	詳細	該当評価数	割合（%）
A	目標値に達した	目標に達したように見える、かつ片側P値（vs.目標値） <0.05	35	31.0
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	改善したように見える、かつ片側P値（vs.ベースライン時） <0.05	28	24.8
C	変わらない	ABD以外	26	23.0
D	悪化している	悪化したように見える、かつ片側P値（vs.ベースライン時） <0.05	20	17.7
E	中間評価時に新たに設定した指標又は把握方法が異なるため評価が困難	そもそも比較できない調査	4	3.5
計			113	100.0



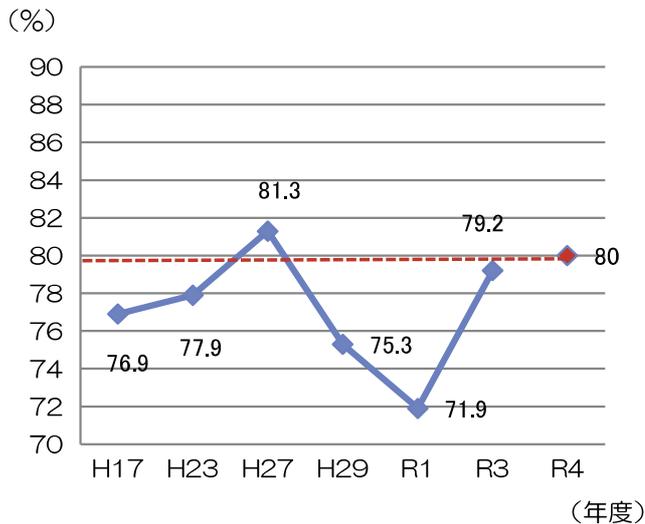
主な評価結果

A：目標値に達した B：目標値に達していないが、改善傾向にある
C：変わらない D：悪化している E：設定した指標または把握方法が異なるため評価困難

<主観的健康観・健康寿命の延伸>

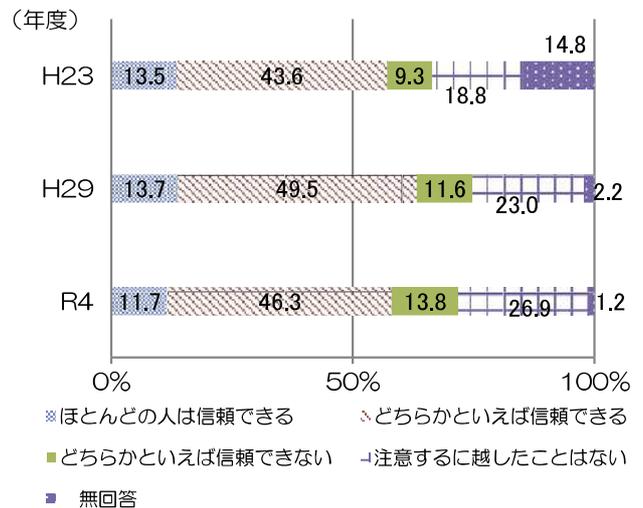
主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
健康を自覚できる人の割合	77.9%	81.3%	79.2%	80%	C
人を信頼できる人の増加	57.1%	62.3%	58.0%	増加	C

健康状態がよいと感じる人の割合



【出典：岡山市市民意識調査】

人を信頼できる人の増加



【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】

健康寿命の延伸について

男性

65歳における平均余命
(≒平均寿命)

65歳における
日常生活が
自立している期間の平均
(≒健康寿命)



女性



【資料：冊子「健康市民おかやま21（第2次）中間評価報告と今後の方向性」】

【資料：岡山市の平成29年～令和2年の人口動態統計と平成29年～令和2年の10月1日時点の推計人口、および平成29年～令和2年12月末時点の岡山市介護保険要介護認定者数計を用いて、「健康寿命の算定方法の指針」（平成24年度厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」）にもとづいて算出】
※65歳における日常生活動作が自立している期間の平均…※65歳から、要介護状態（要介護2以上）になるまでの平均的な期間のことを指す

評価結果の概要

- ＊健康状態がよいと感じる人の割合は、中間評価以降減少していたが令和3年度は増加した。目標値に近づいたが、策定時から変化なし。
- ＊「65歳における平均余命」の伸びよりも、「日常生活動作が自立している期間の平均」の伸びが上回っていた。
- ＊人を信頼できる人の割合は、中間評価よりは減少したが策定時から増加した。

関連した取組

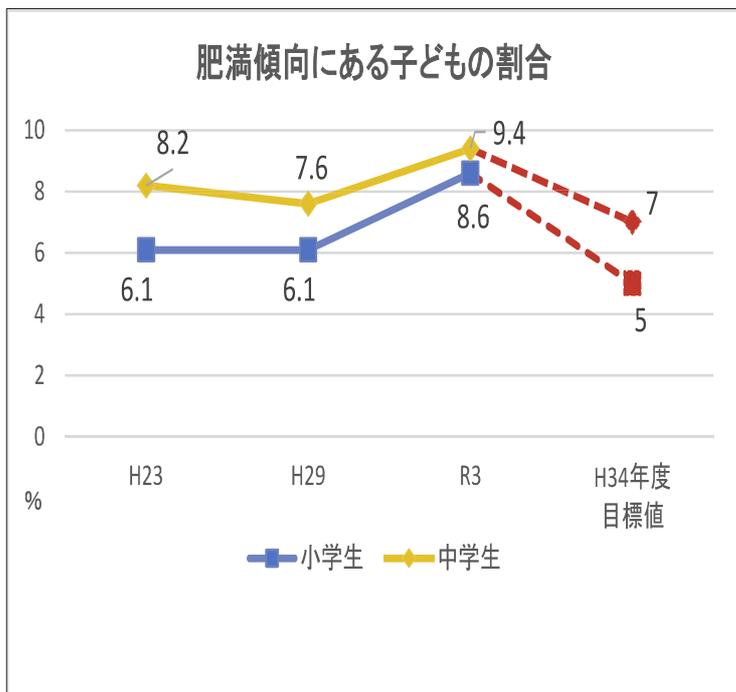
➢健康寿命延伸に向けて、「運動」、「栄養・食生活」、「生きがづくり（社会参加）」を三本柱とし、ライフステージ毎に課題整理を行い、それぞれの事業を展開してきた。OKAYAMA！市民体操の普及、「ええとこ発見図（市内36中学校区のウォーキングマップ）」の作成と活用、高齢者の低栄養予防アドバイス事業、地域推進会議体制整備 等

今後の課題

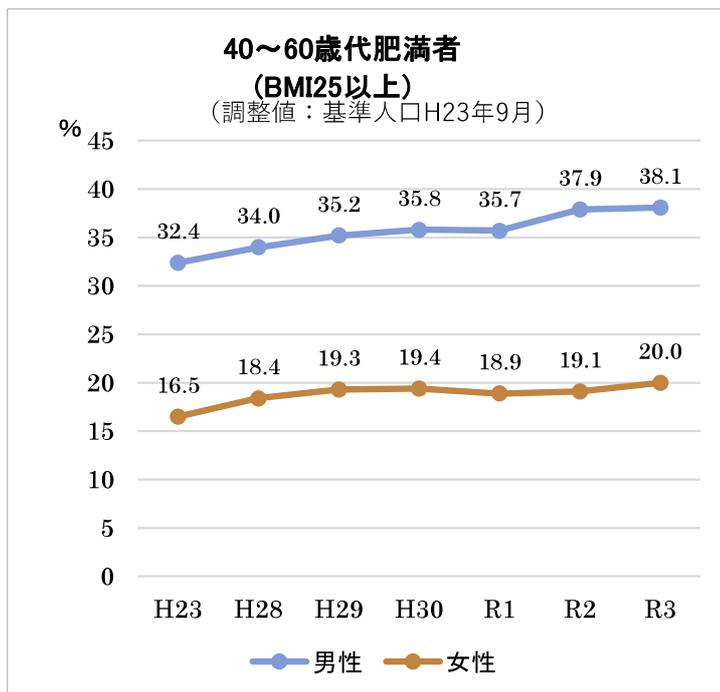
- ・引き続き、健康寿命の延伸、健康格差の縮小に向け、個人の行動と健康状態の改善として「運動」「栄養・食生活」を中心に6分野の推進、「生きがづくり（社会参加）」、ライフコース（胎児期から高齢期にいたるまでの人の生涯を経時的に捉える）を視点とした事業を展開し、地域におけるソーシャルキャピタルの醸成を図る。

<栄養・食生活>

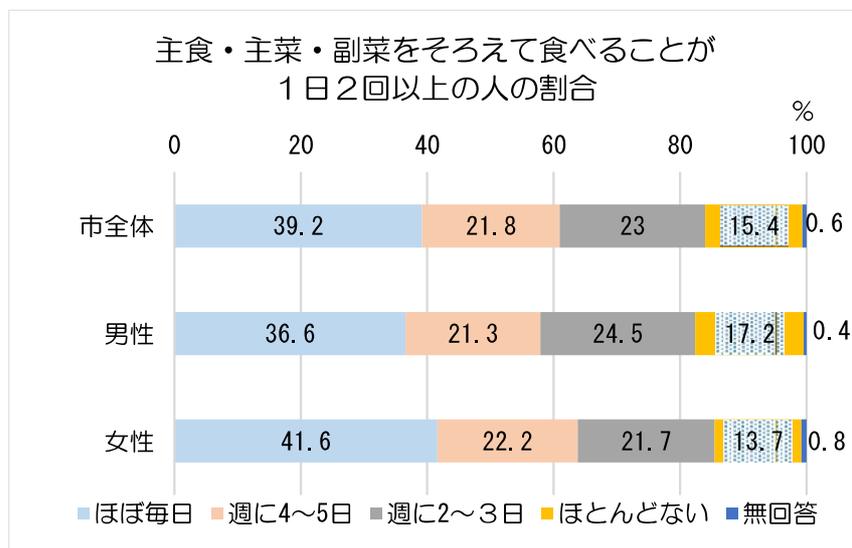
主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
適正体重の子どもの増加 (肥満傾向にある子どもの割合の減少)	小学生 6.1%	小学生 6.1%	小学生 8.6%	5%	D
	中学生 8.2%	中学生 7.6%	中学生 9.4%	7%	D
適正体重を維持している人の割合の増加 (肥満 (BMI25以上))	40～60歳代 男性肥満者 32.4%	40～60歳代 男性肥満者 34.0%	40～60歳代 男性肥満者 38.1%	40～60歳代 男性肥満者 33%	D
	40～60歳代 女性肥満者 16.5%	40～60歳代 女性肥満者 18.4%	40～60歳代 女性肥満者 20.0%	40～60歳代 女性肥満者 14%	D
バランスのよい食事をとっている人の割合の増加	54.9%	54.9%	39.2% (参考値)	60%	E



出典：岡山市体位統計調査



出典：岡山市国民保険特定健康診査



【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】

評価結果の概要

- * 肥満傾向にある子どもの割合は、小学生・中学生ともに増加した。
- * 適正体重を維持している人の割合は、40~60歳代の男女ともに肥満者の割合が増加し、かつ中間評価時よりも増加した。
- * バランスのよい食事をとっている人の割合については、中間評価時まで「いろいろな種類の食品をバランスよくとっている」という主観的な指標を用いていたが、最終評価において、国に揃え、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者」に指標を変更したため、「E:評価困難」と判定した。

関連した取組

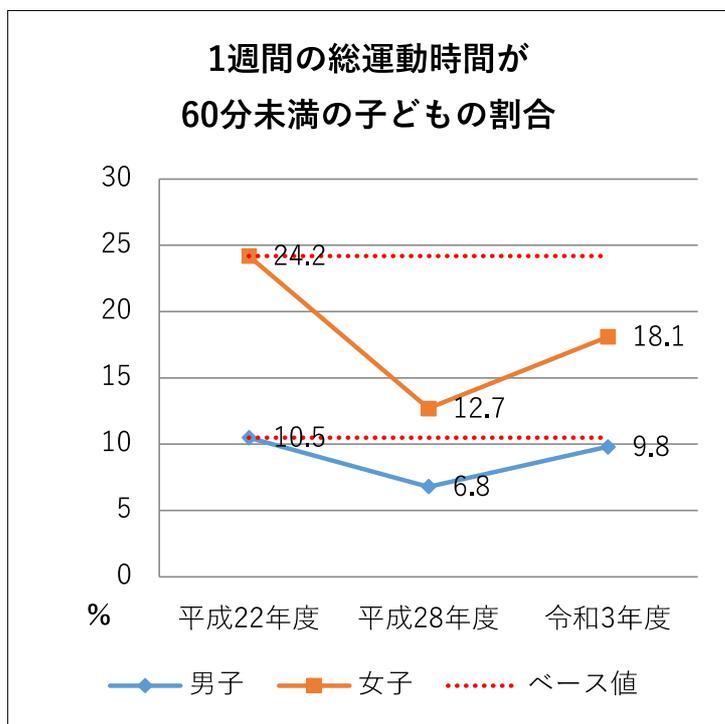
- 学生健康づくり応援事業
- かるうま減塩普及啓発事業（かるうま減塩プロジェクト）
- チラシ・ポスターによる普及啓発
- 健康相談を活用しての知識の普及
- 食育SATシステムを活用しての知識の普及
- 特定保健指導
- 後期高齢者低栄養予防保健指導
- 学区・地区食生活改善事業
- おかやまケンコー大作戦
- 学校保健委員会との連携
- スクールランチセミナー

今後の課題

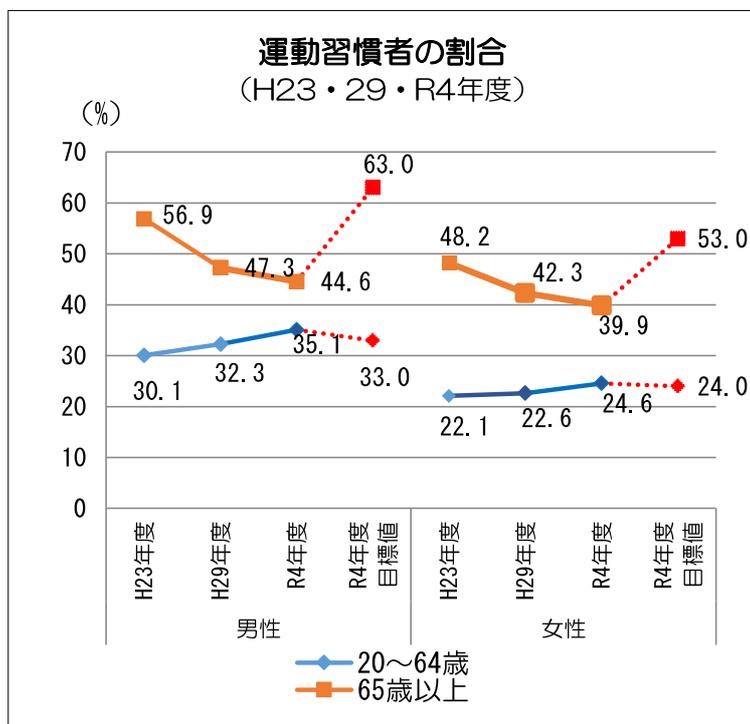
- ・ 肥満対策は、ライフコースに応じたアプローチが必要である。
- ・ 子どもの肥満対策は、食生活、運動など生活習慣全般を通じて考える必要がある。近年の子どもを抱える家庭の状況として、就業者の増加を踏まえ、ライフスタイルに応じた食生活や運動の工夫に関する情報提供が必要であり、学校・園との連携が不可欠である。
- ・ 肥満者に対するハイリスクアプローチが引き続き必要であり、事業所や保険者など、職域保健との連携が今後さらに必要である。
- ・ 栄養バランス、野菜摂取、減塩に関する具体的な取組の普及を図る必要がある。あわせて社会環境の整備への取組をさらに進める必要がある。

<身体活動・運動>

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
1週間の総運動時間が60分未満の子どもの減少	男子10.5%	男子6.8%	男子9.8%	減少傾向	C
	女子24.2%	女子12.7%	女子18.1%		A
運動習慣者の割合の増加	20～64歳 男性 30.1%	20～64歳 男性 32.3%	20～64歳 男性 35.1%	20～64歳 男性 33%	A
	20～64歳 女性 22.1%	20～64歳 女性 22.6%	20～64歳 女性 24.6%	20～64歳 女性 24%	A
	65歳以上男 性 56.9%	65歳以上男 性 47.3%	65歳以上男 性 44.6%	65歳以上男 性 63%	D
	65歳以上 女性 48.2%	65歳以上 女性 42.3%	65歳以上 女性 39.9%	65歳以上 女性 53%	D



【出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査】



【出典：健康市民おかやま 2 1 市民アンケート】

評価結果の概要

- * 1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合について、中間評価時には男子女子ともに大幅に減少していたが、最終評価時にはコロナの影響もあり男女ともに増加した。女子はベース値より減少傾向がみられるが、男子はほぼ横ばいである
- * 運動習慣のある（※1回30分以上、週2回以上、1年以上継続しているものを指す）人の割合は、20～64歳までの男女では増加しており、目標値も達成した。65歳以上の男女においては、減少の一途をたどっている。

関連した取組

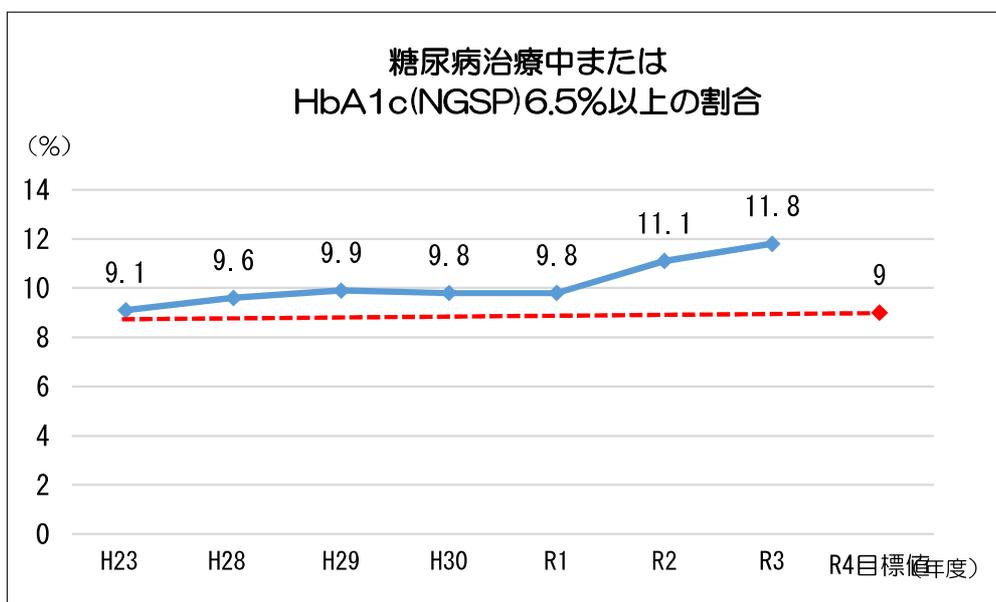
- OKAYAMA！市民体操の作成と普及活動
- 「ええとこ発見図」の作成（市内36中学校区）とウォーキング大会等の開催
- 70万人市民トリオでウォーク（平成27・28年度）
- まちなか健康スタンプラリー（平成27～28年度）
- 「ええとこ発見図」36か所巡り（平成29年度）
- SIBを活用した事業について
 - ・ 健幸ポイントプロジェクト
（国モデル実施：平成26～28年度、単市実施：平成29年度～平成30年度）
 - ・ おかやまケンコー大作戦（平成31年度～令和3年度）
 - ・ 続！おかやまケンコー大作戦（令和4年度～）
- AIアプリを活用した特定保健指導（令和元年度～）
- 特定保健指導対象者運動クーポン（令和3年度～）

今後の課題

- ・ 各年代に応じた身体活動増加に向けたアプローチを行う必要がある。特に、運動習慣が減少している高齢者については、外出や社会参加等を促すなかで運動を促すなどの工夫が必要である。
- ・ 日常生活活動量が増えるよう、「今より10分多く身体を動かす」ことを意識し歩数増加に意識を向けたり、楽しく身体を動かす機会を提供する必要がある。
- ・ より一層SNS等を活用したアプローチを取り入れていく必要がある。

<糖尿病>

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
糖尿病有病者の増加の抑制 (糖尿病治療中または HbA1c(NGSP)6.5%以上割合)	9.1%	9.6%	11.8%	9%	D



【出典：岡山市国民健康保険特定健康診査】

評価結果の概要

*糖尿病有病者（糖尿病治療中またはHbA1c(NGSP)6.5%以上割合）の割合は、有意に増加していた。

関連した取組

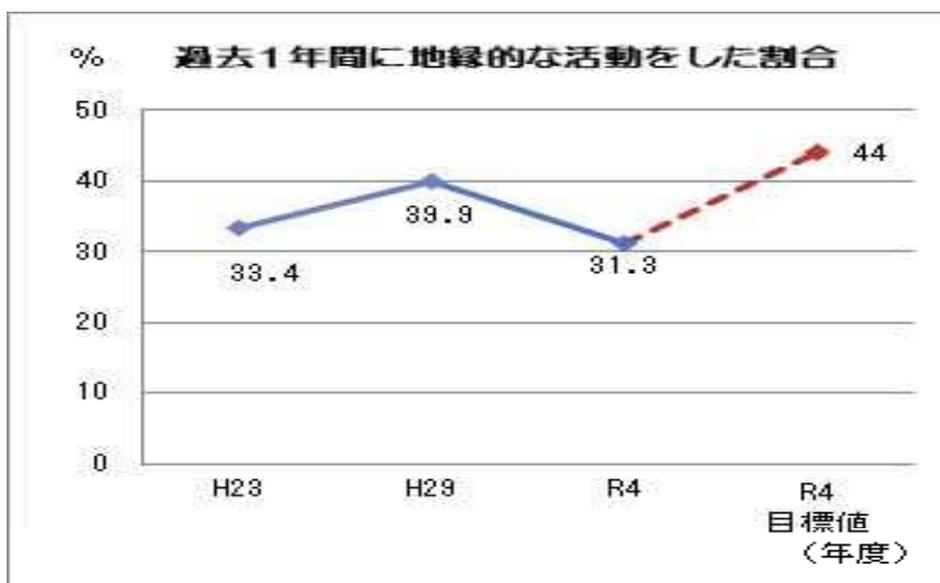
- 岡山市国民健康保険特定健康診査
(R3～ナッジ理論を活用した個別受診勧奨)
 - ・ 特定保健指導、後期高齢者・生保健診
- けんしん受診率向上対策
- 生活習慣病重症化予防・訪問指導
- 健康教育、健康相談

今後の課題

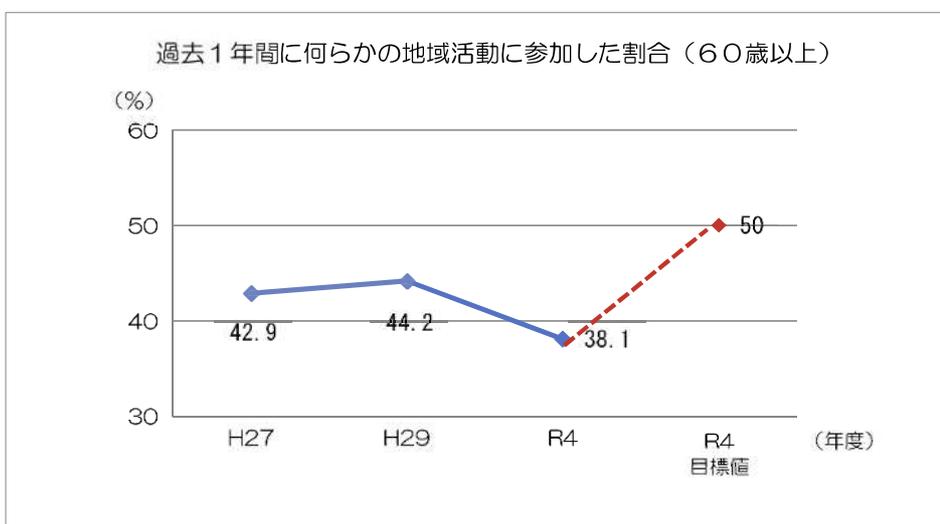
- ・ 肥満者に対するハイリスクアプローチ及び、糖尿病の指摘を受けた者へのハイリスクアプローチが必要である。

<連携>

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
地域のつながりの強化 (過去1年間に地縁的な活動をした割合)	33.4%	39.9%	31.3%	44%	D
高齢者の社会参加の促進 (過去1年間に何らかの地域活動に参加した割合)	42.9%	44.2%	38.1%	50%	D
組織間のネットワーク数の増加及び強化	組織数 800	組織数 1,123	組織数 937	増加及び 強化	A



【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】

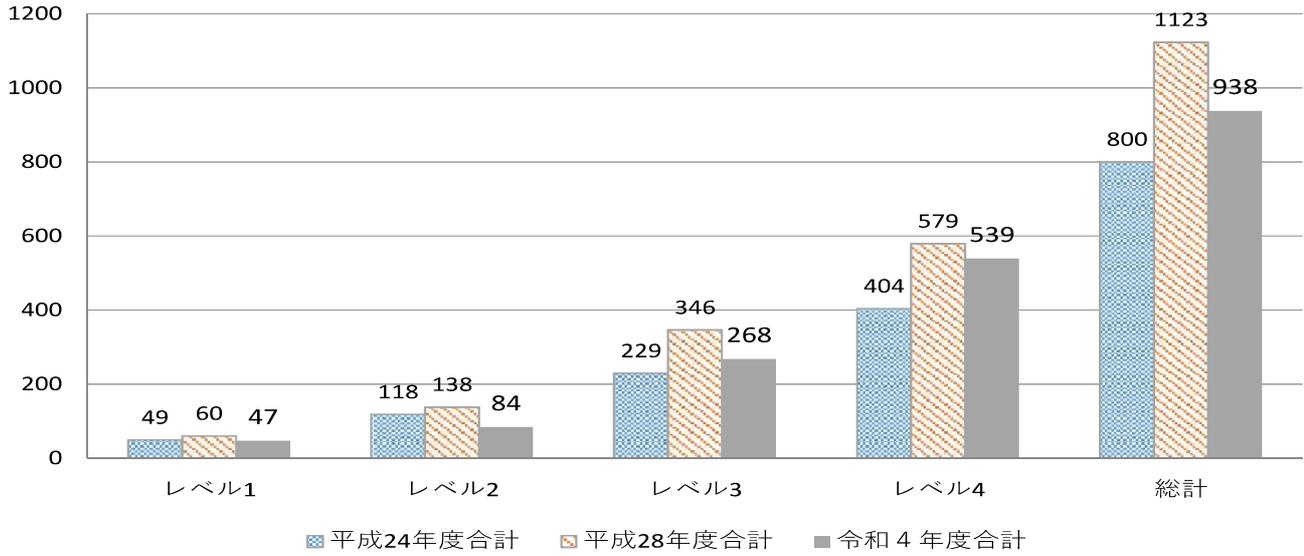


【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】

健康市民おかやま21（第2次）

地域組織・団体との連携の強さと数の推移

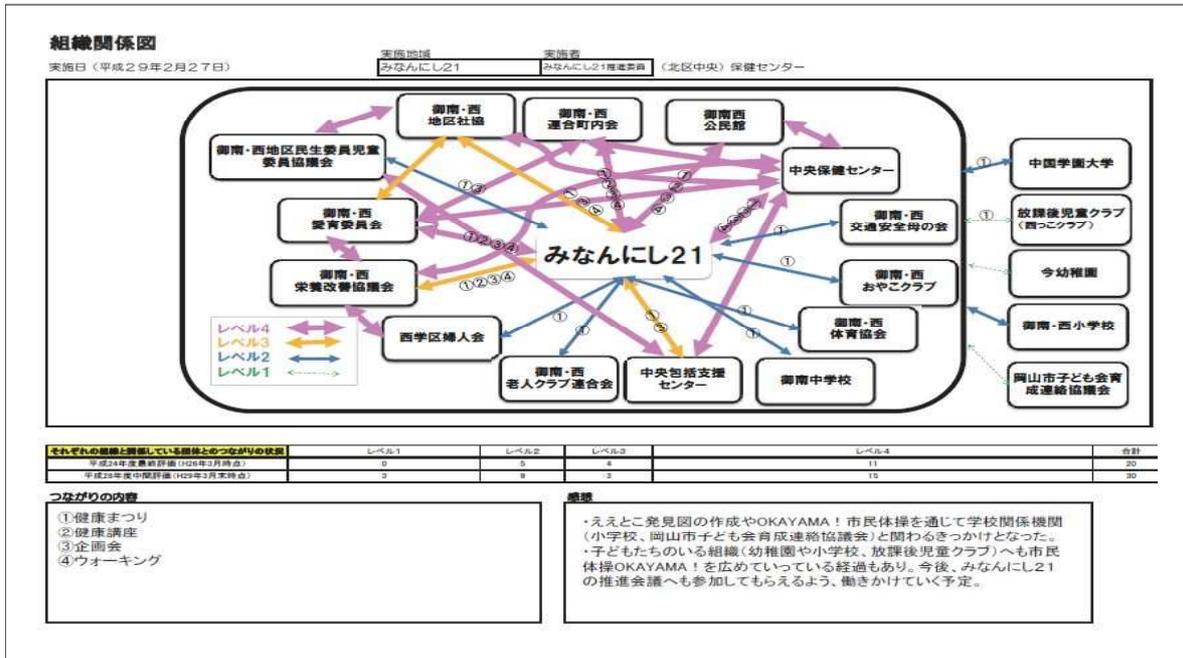
【平成24年度（31か所）と平成28年度（38か所）と令和4年度（41か所）】



【出典：組織関係図】

組織関係図

様々な組織・団体とのつながりを重視し、活動に取り組んできました。地域での連携状況やつながりの強化を見える化し評価するために、地域の推進組織が「組織関係図」を作成し、レベルの集計をしました。



線の太さ	線なし	← - - - - →	← = = = = →	← = = = = →	← = = = = →
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
段階の目安	まったく連携がない	はたらきかけているが、まだ連携はとれていない	徐々に連携がとれつつあるが具体的な取組はない	連携をとりながら単発のイベントや健康教育などしたことはある	日頃から連携がとれる関係であり、具体的な取組がある

評価結果の概要

- * 地域のつながり（過去1年間に地縁的な活動に参加した人）の割合は、中間評価時には増加したが、最終評価時は減少した。新型コロナウイルス感染症の影響があると考えられる。
- * 組織間のネットワーク数の増加及び強化については、連携する組織数も増加しており、連携の強さを測った「レベル評価（レベル1～4）」においても、最も連携の強い「レベル4」の組織数が最も多く占めていた。
- * 過去1年間に何らかの地域活動に参加した割合は、策定時より悪化した。

関連した取組

- OKAYAMA！市民体操の作成と普及活動
- 健康市民おかやま21 地域推進会議・各地域の特性に応じた活動展開
- ええとこ発見図の作成および活用
- 健康市民おかやま21 推進宣言等登録事業
- 桃太郎のまち健康推進応援団の取組

今後の課題

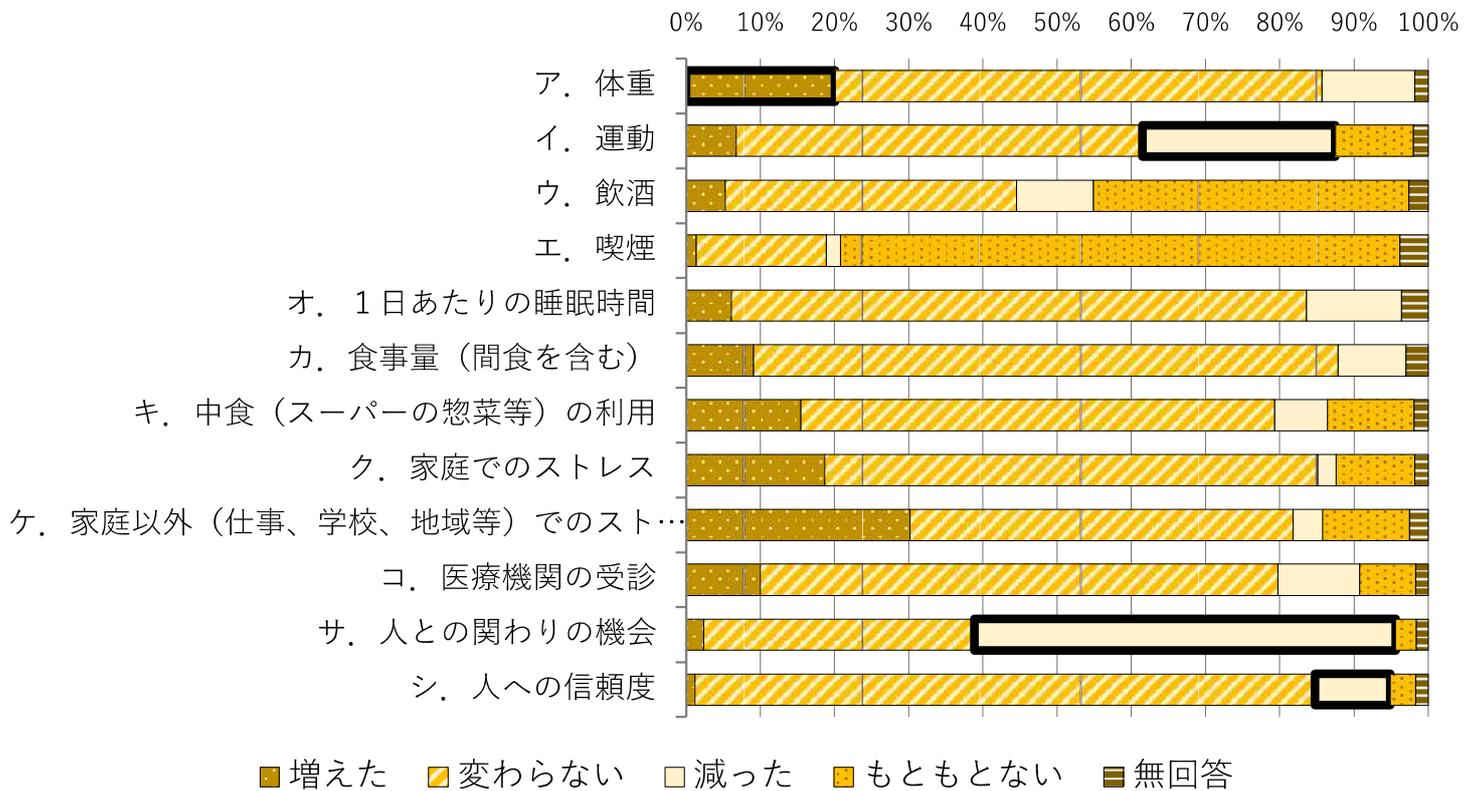
- 学校や企業等、関係する機関と「Winwin」な関係を構築し、健康づくりに関する取組を広げていくことが必要である。
- 地縁関係を強化する活動は今後も継続することが必要だが、地縁に限らずゆるやかな関係の構築も必要である
- 高齢者の社会参加の状況は、新型コロナウイルス感染症の影響も関連していると考えられる（参考：最終評価アンケート コロナ前と比べ人との関わりの機会が減った48.3%（60歳以上））が、今後も社会参加を促し、生きがいが得られるような社会環境整備が必要である。また、「地域包括ケアシステム」の推進に寄与するような人材育成と環境整備につながるソーシャルキャピタルの醸成が必要である。

<新型コロナウイルス感染症の感染拡大前との変化>

新型コロナウイルス感染症の影響は、個人の生活及び社会全体に変化を及ぼし、健康市民おかやま21の活動にも大きく影響しました。そこで、市民アンケート調査で、新型コロナウイルス感染症の影響について、感染拡大前と比較して生活習慣の変化を調査しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（2020年3月）

との変化

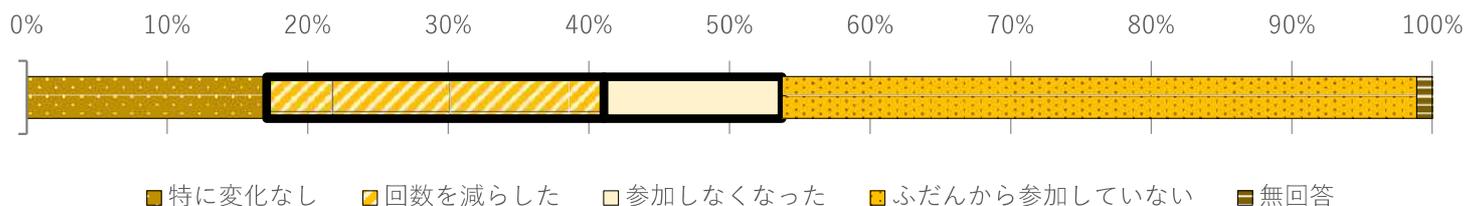


出典：健康市民おかやま21（第2次）最終評価アンケート

- ・体重の変化：20.1%の人が増えた
- ・運動の変化：26.0%の人が減った
- ・人との関わりの機会：56.8%の人が減った
- ・人への信頼度：10.2%の人が減った

「回数を減らした」24.0%
「参加しなくなった」12.7%

新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（2020年3月）と比べて、 趣味・教養・社会貢献などの参加状況の変化



出典：健康市民おかやま21（第2次）最終評価アンケート

個々の生活習慣においても、コロナの影響があり。また、人とのつながりがある人ほど健康であるとされている観点からも、社会とのつながり、人との交流を取り戻していくことが必要。